



# ぼらんていあ通信

7月号  
通巻 No.440

発行 / NPO法人 相模原ボランティア協会 2018年7月24日

連絡所 〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20 あじさい会館・中央ボランティアセンター内

TEL/FAX: 042-759-7982 Eメール: sagamiva@feel.ocn.ne.jp HPアドレス: http://sagamiva.info/



## ボランティア養成講座がスタートしました!

### あなたのやりたいことが「できた」!



基礎講座 第一回

七月七日(土) 十二時半~

あじさい会館 六階第一展示室

まず高橋会長が「昭和五十六年にコース別講座を終了した皆さんと相模原市社会福祉協議会と一緒にボランティア協会を立ち上げ、講座も三十七回目になります。基礎講座からコース別講座に進み十分勉強されてボランティア活動に携わって下さい」と挨拶された。

★講演「人と人の関わり〜コミュニケーション技術〜」

講師 稲富正治先生

川崎 幸クリニック臨床心理士

日常生活のストレスの殆どは人間関係「コミュニケーション」が原因で生じていると言える。従って、何らかの苦しみや問題を抱えている人達とコミュニケーションをとるのには「対人」が難しい。対人援助者の「コミュニケーション」に大切なことは、

①真剣に向き合う事・・・悲壮感を漂わせず穏やかな気持ちで向き合うこと。



稲富先生

②相手の気持ちを受け容めること・・・「気にしない方がよい」など不安

易な受け答えや一般論でアドバイスをしないう。相手の抱えている悩みを十分に聴き取ること。

③寄り添うこと・・・私たちのできる事には限界があり、立場を替わってあげることばかりではないが、一緒にいて、相手の苦しみや悩みを共有すること(理解すること)はできるはず。落ち着いて余裕をもって、相手の気持ちに寄り添うこと。ただそこにいるだけでもその人のためになることでもある。

対人援助のボランティアは、いつか相手が笑顔になれると信じ、人の心を大切にすることだから、ボランティア自身少し心を強く持つためにトレーニングを行った。一人が自己紹介したら、残りの二人はその人となりがわかるような質問をする。聞かれた方もある程度自己開示できないといけない。相手との共通点を見つけたら、話題も広がるし話しやすい雰囲気作りが役立つ。



★車いす体験と介助

講師 県立さがみ緑風園職員

荒木宏治先生



障がいを持った人を特別な人と見ないで欲しい。世の中にはまだまだまだバリアフリーは



荒木先生

右に曲がる時か左に曲がる時だけでなく「普通の会話」しながら車いすを押すように心がけて欲しい。お話の後、部屋の中で基本的な操作を習ってから、外に出て歩道と車道の段差越えの練習をし部屋に戻ってまたさらに練習を重ねた。

最後に受講生の方に感想を伺った。



\*加藤さん(南区)「経験をもっと話された稲富先生の話は胸にすしりと響きました。たね。車いすに乗ったのは初めてでガラスのドアにぶつかるとは思っていました」。  
\*飯沼さん、伊藤さん(田名)「稲富先生のお話はわかりやすかったです。思いやりがないといけないね。車いすは押したことがなかったので、やっとわかりました」。(勝部・山崎)

平成三十年七月豪雨により被災された方には、心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

我々も、「豪雨」見舞わねるかもこれから。豪雨時の対処方法を、国交省がわかすやすすまふめてありますので、七月に掲載しました。参考にしていただければ幸いです。

「基礎講座 第2回」  
七月十四日(土)十三時半  
あじろい会館 六階第一展示室



暑い一日となりましたが受講生十九名を迎え視覚障がいについて学ぶ講座。すっかりお馴染みの谷内先生は、先天性の視覚障がい者(弱視)。桜美林大学専門講師として十二年目「NPO法人JPA ネット北」の事務局長、その他多彩な経歴で活躍です。

★「障がいって何?」講師 谷内孝行さん



講師の谷内さん

(ご自身の持つ)02の弱視という立場からの話は具体的に分かりやすい。例えば小さい

文字が見えないので苦労が多かったがこの頃はPhoneを駆使してデータを収集できるし、新聞の紙面はPadで文字を大きくして読めるので大助かりのこと。また「歩車分離式」の信号のある交差点では車の音が途切れるのを待つのが非常に分かりにくいのが困っている。「障がいについて知り、正しく理解し、関心を持って接し、具体的な行動に持って行き、それを広める。それが心のバリアフリーに繋がります」と結ばれた。

ライトセンターの入江さんからは視覚障がい者の方をサポートする時の具体的な方法について指導を受けた。

★実技「視覚障がい者との接し方」

講師

入江康典さん



(神奈川県ライトセンター)



講師の入江さん

「JJJ」「JJJ」ではなく、JJJの机の所で具体的な場所を言いつつ。(勝部・小林)  
\*第3回は来月号に掲載します。



### 8月の記念日は?

小倉義男

8月13日、怪談の日です。「怪談」をエンターテインメントとして確立した稲川淳二氏が、自身の「怪談ナイト」20周年連続公演を記念して、第1回の公演が行われた1993年8月13日にちなんで制定。稲川淳二氏はその独特の口調で聞く人に恐怖を味わわせている。暑い日には、怖い話で涼しくなりたいですね。



小倉画

### 報告

住い探し相談会の派遣サポートとして参加

七月十三日(金)午後一時半から、ソレイユがみ セミナールームで「かながわ住いまちづくりの協会」主催の『住い探し相談会』が開催されました。ボランティア協会からも二名がボランティアとして参加し、相談のお手伝いをしました。

### つめわかの黄色いシートのキャンペーン

イオングループが社会貢献の一環として行っているもので、毎月十一日のシートは黄色い色になっています。そのシートを提供して頂く、登録している福祉関係の団体に、売上額の1パーセントを寄付して頂きます。

ボランティア協会も、毎月十一日には、イオン橋本店に出向き、キャンペーンをアピールしています。



登録団体名が書かれたボックス

今月も、杉本理事、鈴木理事、下里さんが、シートを入れてもらう黄色い箱を掲げて「黄色いシートキャンペーン」に協力をお願いします」と声を張り上げました。声をかけると、シートを懐いて見直す人や、快くシートを入れてくださった方々など、反応は上々です。下里さんは、一年くらい前から、毎月キャンペーンに参加させていただいて「買い物客から何をされているの?と質問されることも多い、趣意をお話できればいいので、キャンペーンをしっかりとPRできればいい」とおっしゃっていました。レジの近くには、登録している団体名が書かれたボックスも設置されています。その前では、各団体の活動内容をしっかりと読み、納得してシートを入れる人や、どの団体のボックスにシートを入れるか、事前にしっかりと決めていらっしやうって迷わずシートを入れる方々など様々でした。



毎月十一日には、イオングループ店で買い物をして、キャンペーンにご協力をよろしくお願ひします。

(勝部・恒藤)



おしゃべりしながら楽しい食事! (お母さんも一緒に)

### ボランティア活動グループ訪問記

#### 和気めいあこども食堂

六月二十六日(火)午後五時から東林公民館で開かれている「くぬぎこども食堂」を取材させてもらった。一階の調理室では六名のボランティアさんが準備に動かしんでいる。いいおいが立ち込めていた。

責任者の松原好江さんにお話を伺った。以前よりくぬぎこども安全見守り隊の活動中、朝挨拶をしても元気がないので聞いてみると、朝ごはんを食べていない子供がいることがわかった。それで健康管理士の資格を持つ松原さんは、せめて夕ご飯を食べられる機会を提供したいと、仲間を募ってこども食堂を始める。九月の開業当初はくぬぎこ小学校区内の子供が対象だったが、今では東林小学校や上鶴間小学校の子供たちも来ている。月一回午後五時から六時半の二時間三十分。希望すれば子供は誰でも受け入れる体制だ。スタッフにくぬぎこ小PTA会長で管理栄養士の資格を持つ手岡美保さん、副会長で調理師免許を持つ松井さんの二人が加わっている。ので大変心強い。参加費は子供百円、大人三百円。あこは社会福祉協議会の助成金で賄

っている。低学年は原則親子で参加親同士で頼みあうのは可、夜なので安全のために明るい道を通るように注意している。いつもは八名いるスタッフだが、今日は六名。大体二十人分の食事を用意している。

本日のメニューは、彩の酢豚、韓国風サラダ、コンソメスープ、パイナップル。赤、黄、緑の彩りがきれいで、食欲をそそる。子供たちは学校を終え、学童保育を受けた帰りに、お腹をすかせて子供食堂にやってくる。元気がよく挨拶し、荷物を降ろして席につく。するとすぐに温かい食事が運ばれ、いただきますと手を合わせ食べ始める。その様子から、ここが馴染の自分たちの居場所なのだろう。スタッフの方たちとのやり取りも、のりや楽しそうなりラックスした和気あいあいの雰囲気から、まさにオアシスのようないい場になっていると感じられた。

「ごはんの食べ方や箸の持ち方、食べる順序など食事マナーも気付いたらきちんと注意し、食育面での指導も心がけている。一番人気のメニューはドライカレーだそうだ。私達取材の者も市若者支援課の井上さんや市社協の田中さんと一緒に試食させてもらった。もちろんですごくおいしかったですね!」

松原さんに今後の課題を伺うと、現在月二回の回数を増やしたいが、スタッフの人数が足りない。くぬぎこ食堂の意義に賛同した方、ぜひスタッフとして一緒に働いて欲しい、とのこと。現時点では相模原には二十七カ所のくぬぎこ食堂があるが、今後もっと増えるのではないかと。

(植野・山崎)



\*くぬぎこども食堂  
開催日: 毎月第2・4火曜日  
場所: 東林公民館 2階調理実習室  
時間: 17時~18時30分  
参加費: こども100円 大人300円  
\*問い合わせ先:  
KODOMOSHOKUDO2017@gmail.com

### クイズに挑戦

意外と知らない熱中症クイズです。

①平成二十九年七月、都道府県別人口十万人当たりの熱中症での救急搬送人員数が最も多かったのは?

- ア 沖縄
- イ 鹿児島
- ウ 宮崎

②平成二十九年七月、全国での熱中症による救急搬送人員数は?

- ア 二六〇人
- イ 一六〇〇人
- ウ 二六万人

③過去十年間の、職場での熱中症による「死傷者数」は毎年どれくらい? (※過去十年間 平成二十~二十九年)

- ア 五〇~一〇〇人台
- イ 二〇〇~三〇〇人台
- ウ 四〇〇~五〇〇人台

④平成二十九年七月、熱中症の発生場所で一番多かったのは?

- ア 屋外
- イ 住居
- ウ 仕事場

### クイズの答え

- ①はウの鹿児島
- ②はウの二六万人
- ③はウの四〇〇~五〇〇人台
- ④はイの住居

ほっこりな♡ぼらんていあへ  
アマチア芸人「そこっ家 酒楽」

12

私は、中央区上溝在住、演芸でボランティア活動をしている佐々木です。退職後趣味で古典落語を始めたのがきっかけで、人前で芸を演じる面白さにひかれ、地域の自治会や高齢者学級、ふれあいサロン等で五年間やってきました。

その後デイサービスの施設等へも足を運ぶうち判ってきたことは、お客さんが高齢の為、聴いてもらいうりの芸より、視覚つまり見て楽しんでいただく芸の方が良いのではと思います、以降十年間は、初めの出だしは「漫談、小噺」、中を「手品と腹話術」で盛り上げ、締めを「曲芸皿回し」という構成。一人で三十分から一時間、時には仲間と共に演ずることもあります。

かつては、上溝在住日本舞踏「華若会」の人達と共に演ずることもありましたが、舞台の広さの面で何処でもと言う訳にもいかず、今では腹話術の人形を使い、お客さんや施設の職員の方達と、炭坑節の輪踊りでフィナーレを飾っています。

活動範囲は主に市内中央区管内ですが、川崎市の緑区まで足を運ぶ事もあります。活動回数は月平均五件程、自分の体力と合わせ、脳のトレーニングには丁度良いと思っています。腹話術は他の芸に比べ、身近

今年の主な活動と今後のよてい

1月 1日	ツクイ横山デイサービス	40分
1月 18日	ふれあいサロン高根	60分
1月 25日	リハビリ教室おおのなか	45分
2月 15日	上溝ルイーダの家あき	60分
3月 8日	小山田デイサービス	60分
3月 11日	イリーゼ矢部	30分
4月 18日	上溝田中サロン	60分
4月 30日	もみじの手中央	45分
6月 25日	中山ケアプラザ	60分
8月 7日	川崎障がい者学習	60分
9月 26日	川崎病院患者家族会	60分

に見る機会が少ないのと、子育ての頃を想いだすのか、高齢者の方と人形とのスキンシップはとても喜ばれます。今年七十九歳、これからも無理なく、体力の続く限りボランティア活動で地域社会の支援続けてまいります。



問い合わせ：中央区ボランティアセンター（いるかバンク）042-786-6181

理事会報告

七月四日（水）十三時半から（理事七名出席）

一・報告事項

◆広報

- ・ぼらん通部会、各委員会への取材を検討している。
- ・情報部会、ホームページの公告資料を更新した。
- ・わくわく部会、次号は七月二十八日に発行予定。
- ◆ハンディキャップ委員会
- ・日本財団への福祉車両助成の申請をした。

◆事務局委員会

- ・第三十六回福祉の集い、後援了承の連絡をした。

◆総合企画委員会

- ・次回は七月三十日に開催予定

◆講座検討委員会

- ・基礎講座の参加は二十二名、社協が臨時のピラ配布をして下さり、当日参加を受け付ける。

◆傾聴委員会

- ・八月十日に交流会を開催。

二・審議事項

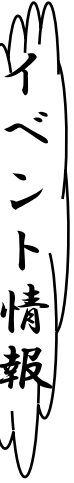
- ・役員任期及び就任期間について定款の一部改訂を検討した。総会への提案については継続して検討する。
- ・運転ボランティアの増員対策、定年、利用者対応については継続して検討する。

- ・若手会員ヒアリング（ボラ協の今後について意見交換）八月四日開催予定

三・その他

- ・二十四時間テレビ「愛は地球を救う」募金活動への協力。八月二十四日（金）四時から五時
- ザ・ビック西橋本店 ※参加者募集

次回理事会 八月一日（水）



平成三十年度第二回「子ども  
の居場所づくりセミナー」

日時：八月二十九日（水）

十四時～十六時

場所：ソレイユさがみ

セミナールーム2

（緑区橋本6の2の1）

内容：子ども居場所づくりに取り組みたいと考えている方など  
を応援するセミナーです。

○行政施策等の概要説明

相模原市子ども・若者支援課

○事例紹介

くすのき広場・淵野辺つばめ塾

○質疑応答

申込・問合せ先

八月一日から申込受付

市社協中央ボランティアセンター

電話：042・786・6181

FAX：042・786・6182

Eメール

svc@sagamiharashishakyo.or.jp

※FAX、Eメールの場合は

氏名、電話番号、お住まいの地区

「8/29セミナー申込」とご記入

の上、送信ください。

☆市民福祉活動交流会 ～まるまるつな  
がりプロジェクト2018～

日時：八月二十四日（金）

午前十時～午後二時

場所：あじさい会館

内容

①書家 金澤翔子 席上揮毫・書展

かなざわやまこ

金澤泰子講演会 あじさい会館ホール

開演：十三時十五分、開場十二時半

入場料千円（全席自由）

※事前にチケット購入が必要です

チケットはあじさい会館管理事務室、

市社協の緑区、南区事務所にて販売

（九時から十七時）。

②絵本の三百年を旅する「世界図絵から今日まで」

・世界初の絵本とされるコメニウスの「世界図絵」

（千六百五十八年）から今日までの世界中の

絵本の展示。

・講演会十一時から十二時「子育てに絵本を」

講師：大村祐子氏（JULA出版局代表）

③市民福祉活動情報コーナー

・子ども居場所づくり応援コーナー

・フードドライブ

☆お米、乾麺、シトルト食品、缶詰、

お菓子など、未開封、賞味期限内の

食品をお寄せください！

☆いただいた食品は、NPO法人を通じて

必要な世帯にお届けします。

〈問い合わせ先〉市社協中央ボランティア

センター 電話042・786・6181

お詫び；今月の 相模原市で活躍する会社紹介”は、都合により掲載を休みます。

ボランティア協会 8月の予定

日	時間	内容
1(水)	13時半	定例理事会
4(土)		若手会員ヒアリング
10(金)	13時半	傾聴委員会・交流会；ポーノ相模大野地域交流ラウンジ
11(土)		黄色いレシートキャンペーン
18(土)	10時 13時	HC委員会 事務局委員会
20(月)	13時	ぼら通印刷
21(火)	13時	ぼら通発送
24(金)	13時半 16時～17時	ぼら通部会 24時間TV募金活動の協力；ザビッグ西橋本店

市社協事業紹介 (その4)

ボランティア協会員の皆さま、こんにちは！  
相模原市では多くのボランティアの方々、自治会、地区社協、民生委員・児童委員の皆さまがそれぞれの地区で福祉活動に取り組んでいます。市と市社協も、多くの方々のご協力を得て様々な福祉事業を展開し「みんなで支え合い地域の力が育む 人にやさしいまち さがみはら」を共通のスローガンとして、地域福祉の推進に取り組んでいます。

今号は八月二十四日(金)にあじさい会館で開催される「市民福祉活動交流会」まるまるつながりプロジェクト2018」を紹介します。

◎「パラリンピックと障がいの理解」

2020年のオリンピック・パラリンピックを控えて会場の整備も着々と進んでいます。競技スケジュールもあらかた決まり、これからますます開催に向けた機運が高まっていくことでしょう。福祉の分野でもパラリンピックを追い風に、スポーツを通じた障がいの理解、障がいのある方の社会参加の機会の創出や支援の在り方が論じられていくことと思います。障害者差別解消法等も成立し、スポーツに限らない様々な場面での活躍が期待されるところです。

そんな中、私たち福祉関係者やボランティア活動者に求められているのは、盛り上がりつつある障がい理解、支援の機運がスポーツや競技に特化したもの、さらに一過性の流行にならないよう、この機会にしっかりとした支援基盤を作り上げることではないでしょうか？

相模原市を含めた多くの地方自治体が、これからオリンピック・パラリンピック関連の事業を進めていきますが、協力する私たちの立場としては、この視点を常に意識し発信し続けることこそが、ボランティア協会や市社協が永年活動してきた理念そのものであると考えるところです。

◎「金澤翔子さんのこと知ってる。」

金澤翔子さん(書家・1985年生まれ)はダウン症です。お母さん(泰子さん)の影響で、5歳から書道を始めました。20歳で初個展を開いて以来、280か所以上で個展を開催。100万人以上の方がその作品に触れており、その活動は海外でも評価されています。NHK大河ドラマ「平清盛」の題字も翔子さんの作品です。最近では泰子さんとお二人で全国を回り、障がいの理解や支援の視点等を講演されるなど、活動の幅を広げています。その二人が、「市民福祉活動交流会」(あじさい会館)にやってきました。「障がいを考える」私たちができること」として翔子さんは席上揮毫を、泰子さんは自らの体験をもとに講演を行います。

◎市民福祉活動交流会で新たな出会いを！

多くの相模原市民が福祉活動の主体として活躍することを願い、あじさい会館内で様々なプログラムが展開されます。皆様もぜひご来場ください。

日時 八月二十四日十時  
場所 相模原市立あじさい会館内  
☆ 絵本の300年を旅する「世界図絵」から今日まで 世界初の絵本から今日までの世界の絵本の展示 十時～十六時

☆ 講演会「子育てに絵本を」大村祐子氏 十一時

☆ 読み聞かせ・おしゃべり 十時頃～、十四時～

♪ 子どもの居場所づくり相談コーナー

♪ ふれあいサービスクーナー

♪ ファミリー・サポートコーナー

♪ ボランティア活動案内

# フードドライブコーナー

お米、レトルト食品、缶詰等未開封、消費期限内の食品を預かり必要な個人、団体に配分します。皆様のご家庭で眠っている食品がありましたら、当日お持ち下さい。なお生鮮食品はご遠慮ください。

◎ 金澤翔子 席上揮毫・書展

金澤泰子 講演会「障がいを考える」私たちができること」

開演 十三時十五分  
会場 あじさい会館ホール

\*金澤さんの催しのみチケット(¥1000)が必要です。お問い合わせはボランティアセンターまで。売り切れが予想されます。お早めに！

市社協 田所

会員のひろば

様々なボランティアクループ活動をなさ  
ている会員の皆さま、その活動  
の紹介や経験したことなどを語っ  
ていただくコーナーです。

東林地区ボランティアグループと私

安部 洋子

当グループの発足は一九八一年、先輩の  
方々は何をすべきか、戸惑い、手探りのまま  
始めたところです。私が入会したのは一九九四  
年でした。

この地区のことを全く知らなかったので、  
県のボランティア講座を受講したり、ボラン  
ティア協会のハンディキャップの講習を受けたり  
して、何かのキッカケになればと思いい入会  
しました。今年で二十四年になりました。

当グループは緩やかな繋がりで、月2回の  
会合で、主婦の座を少しだけ離れて、お互い  
に困ったことや、体調のことなど話し合う機  
会もありました。その間、会員の研修で手芸  
や、草木染の研修、救命救急法の講習など経  
験しました。

メインとして七十七歳以上のお独りで暮  
らされている方々への呼びかけは、年一回の  
「ふれあいのひまわり」地区ごとのお楽し  
み会があります。「ふれあいのひまわり」は  
地区の方々のお話や演奏、幼稚園、保育園の  
園児に歌や、遊戯を披露してもらっています。  
参加者ばかりも喜んでいただいています。

あとの四回は東林間、上鶴間地区と相南地  
区に分けて、行っています。会員手作りの昼  
食を招待者、会員がお話をしながら頂くのみ  
です。これは瀬戸物の茶碗で頂くご飯や煮物、お漬  
物などができるので、好評で、料理を担当する  
人たちの励みになっています。

さて、介護保険制度が始まり、福祉をとり  
まく状況が変わってきました。担い手が少な  
かった時代は、電球をとりつけることや、ゴミ  
出しなど隙間を埋めるようなことも頼まれ  
ました。時代とともに保険等で手当てができ  
るようになりました。しかし、施設の行事の  
お手伝い、車いすの外出介助などの依頼が入  
り、直接の個人との関わりが少なくなってい  
きました。

一方、会員は年月と共に体力が減少し、世  
交代のないままの状態です。地区の公民館  
や、社会福祉協議会でも協力的な姿勢を見せ  
て下さっているのですが、会員の不足、高齢  
化はどうしようもありません。この事態をど  
うしていくのか皆様の意見をいただきたい  
と思っています。

\*安部さんは、ボランティア協会でも、南事  
務所の代表として又事務局員として長い間活  
躍され、南事務所が閉鎖された後は「ハンテ  
ィキャップの介助」や「住い探しサポーター」  
「傾聴ボランティア」など多岐にわたる活動  
をされています。



再確認を!

水害時にやるべきこと ~下水の逆流を防ぐ~

豪雨のときは、下水が逆流し、トイレや風呂場、洗濯機の排水口などから水が噴き出ることがある。下水道の水位が急上昇することが原因で、2階まで逆流することもあるという。「ゴボゴボ」といった異音が排水溝から聞こえてきたら、危険信号だ。どう防げばいいのかわかる。

国土交通省は「家庭で役立つ防災」でビニール袋に水を入れた「水のう」が有効と呼びかけている。

一般財団法人「住宅金融普及協会」によると、40リットルや45リットル用の大きめなビニール袋が有効だという。水は、半分程度(20リットル)入れ、「残りの空気を袋から抜いて、口を固く締める」ことが大切。また、プラスチック製のタンクなどでても代用可能だという。

床下収納から浸水する可能性もある。重いものや水のうなどでフタを塞ぐことで、軽減できるという。また、大事な家財などを高いところに避難させておくことも大切だ。

(国土交通省のHPより)

浸水直前の対策 ~下水の逆流を防ぐ~

- 急激な水位の増加により下水が逆流し、トイレや風呂場、洗濯機の排水口などから水が噴き出ることがある。
- ビニール袋に水を入れた水のうを置くと、逆流を抑える効果がある。

水のうで逆流防止



資料/新潟県民防衛「豪雨災害対応ガイドブック」

資料/新着書「内水(浸水)ハザードマップ」



# ボランティアさん募集!

## 高齢者施設での将棋ボランティア

- 内容 入居男性の将棋の相手  
 ※特に段等は持っておらず、一緒に将棋を楽しんでいただける方
- 日時 火曜日・金曜日午前以外で都合の良い時間
- 場所 ラヴィーレ古淵(中央区東淵野辺4-17-2)



連絡・問い合わせ先

相模原ボランティア協会あじさい連絡所 : 電話 042(759)7982  
 相模原市社協 中央ボランティアセンター: 電話 042(786)6181

NPO 法人相模原市障害児者福祉団体連絡協議会さんでは、今年もおいしい素麺の受託販売を行っていらっしやいます。  
 ご協力を、よろしくお願ひします。



### 平成30年度夏季受託販売のお知らせ

5月15日(月)より、下記の受託販売を行っています。ご協力をお願い致します。

- ①島原小町(化粧箱入り) 標準小売価格 3,465円 ⇒ 2,400円
- ②麺ごころ(化粧箱入り) 標準小売価格 4,322円 ⇒ 2,900円
- ③麺ごころ(化粧箱入り) 標準小売価格 5,400円 ⇒ 3,600円

- \*販売期間: 平成30年5月14日 ~ 平成30年8月31日
- \*販売場所: 商品お渡し場所 あじさい会館内4階 NPO 法人れんきょう事務所
- \*販売時間: 午前10:00 ~ 午後4:00 (月曜日~金曜日)
- \*お問い合わせ: NPO 法人れんきょう事務所まで。電話 042-755-5282



先月一緒に旅した女性はとても美しい五十代の女性で趣味を介して月に二、三度の十年来の付き合い。美しいバブには棘がある、と言いつつをいやというほど思い知らされた旅でした。まだまだ甘い…私。

#### 編集後記

(小)



《今月のイラスト》  
 ……書い夏はタンニンクマ…《

